
聞こえる

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
聞こえる

【コード】
N1633M

【作者名】
川崎ゆきお

【あらすじ】
唸り声にもうめき声にも聞こえる。非常に低い声か音だ。

唸り声にもうめき声にも聞こえる。非常に低い声か音だ。

「何でしようねえ、気味の悪い」

近所の主婦が噂する。

雨の降る夜、いつそう気味悪く鳴り響く。

聞こえるのは小学校周辺の一角だ。

安田耕一はマンションのオーナーで、住人から苦情が出た。

マンションは学校近くに建っている。

安田はまさかと思った。

当然安田もそれを聞いている。

マンション屋上から校庭がよく見える。その、まさかは校庭から聞こえてくるのではないかと思った。そう思うだけの理由がある。

雨の降る日によく聞こえることも思い当たった。しかし、まさかそれが…と思うと否定するしかない。そこはもう校庭になっているからだ。

「今頃目覚めるはずはない」安田は否定した。

それは安田がまだ小学生のころだ。学校ができるまでは溜め池だった。

それを埋め立て作業を安田は見ている。もう何十年も前の話だ。

安田はその噂を聞いたとき、すぐに分かった。

ガマガエルの鳴き声なのだ。

しかし住宅地となってからは聞こえなくなった。ガマガエルがいなくなったからだ。

その夜も聞こえた。

安田は雨の中、外に出た。確かに鳴いている。あの低く不気味なガマガエルの鳴き声だ。

小学校の周囲を歩いた。やはり学校の敷地から聞こえる。学校から遠ざかると鳴き声も小さくなる。

夜中にプラスバンド部が練習しているわけがない。

ガマガエルたちは溜め池もろとも埋められた。水を抜くとき大きな鯉やフナを見た。なかなか釣れなかった大物だ。

友達は竜のような池の主がいると聞いていたがいなかった。

今頃どうしてガマガエルが鳴くのだ。安田の額から脂汗が出て来た。ガマガエルを何匹も殺したことを思い出したからだ。

住人から学校へ問い合わせて真相が分かった。

理科の授業で使うガマガエルを用意していたのだが、子供たちがいやがるので、解剖の授業ができないまま水槽で飼っていたようだ。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1633m/>

聞こえる

2010年10月11日10時13分発行